

# 兵庫県美方郡新温泉町春来地区におけるむらづくり事業の法人化へのアドバイス

兵庫県推薦都市農村交流アドバイザー（分野：合意形成）  
 浅見雅之（合同会社人・まち・住まい研究所）  
 （株式会社春来てっぺん 代表取締役）

## 1. 取組概要

新温泉町春来地区では、23年前から村おこし事業として、そば店「そば処 春来てっぺん」を運営しています。しかし、高齢化が進行し担い手が不足していることから、この店を継続的に運営する仕組みづくりが求められていました。私は中山間地域における地域運営支援を行ってきた経験をもとに、アドバイザーとしてこの仕組みづくりを支援しています。



## 2. 取組前の地域の状況

平成11年に地域住民が共同出資して作った任意団体「春来そば生産組合」を母体とし、地区内でそばを生産し、そばを提供する「そば処 春来てっぺん」の運営を続けてきました。しかし、長年の運営による運営メンバーの固定化や、高齢化によるメンバーの減少が課題となっており、若い人たちの参画もなかなか得られないため、5年先・10年先の運営が危ぶまれる状況が続いていました。

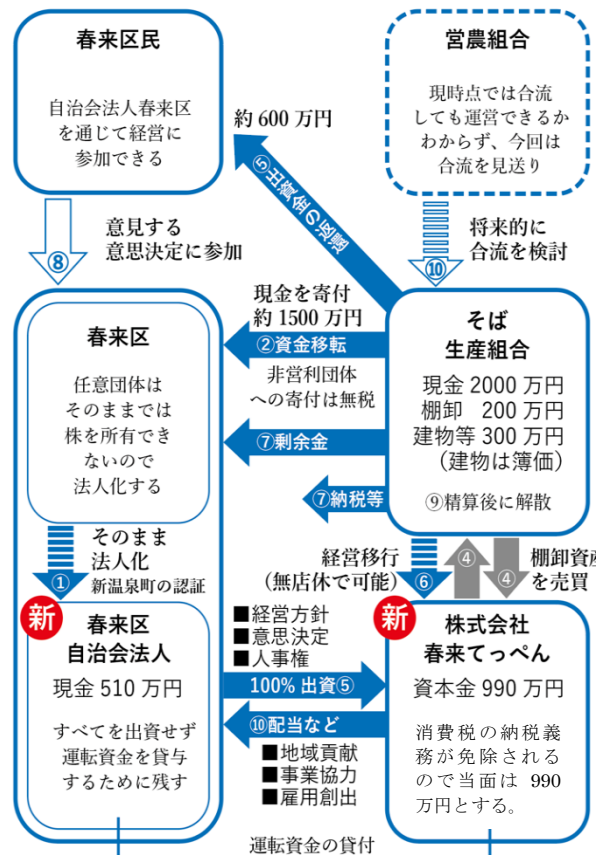
年間の売上は約3,000万円、来客数は2万人。これまで全てのスタッフは村のパート従業員でした。兵庫県の最低賃金（時給）は支払われており、役員報酬も出ているという村おこし事業としては他に類をみない好成績で、この23年間一度も赤字を出したことがないという状況です。

しかし一方、社会保険・労働保険等が整備されていないなどの問題もあり、なかなか地区外から誰かに働きに来ていただくには厳しい環境です。ここで、求められていたのは運営組織の再編と、外部人材の導入でした。

## 3. 具体的なアドバイス内容

内での合意形成・企画立案の支援を行い、地元自治会が全額出資した株式会社である「株式会社 春来てっぺん」を設立するという手法を助言。結果として株式会社の形態をとっているけれど実質はNPOという組織として成立させました。

この助言をきっかけとし、自治会から代表取締役の就任を依頼され、現在は地域外から参画した（雇われ）経営者として、組織内の新たな仕組みの構築・そば生産の合理化・自治会と株式会社の健全な関係の再構築の作業を行っています。



株式会社設立の手順

## 4. 地域の変化

労働条件を整備したことにより、新温泉町内と隣町から2名の30代の正社員従業員に来てもらうことができ、安定的な労働力を確保することができました。また、集落内のパートタイム従業員たちも、これまでの組織ではなかなかできなかった新商品の開発や、新たな顧客サービス導入、職場環境改善の取組みなどに積極的に取り組めるようになってきています。



また会社設立をきっかけとして、地区内の若者を中心としたチームが、獣害対策のクラウドファンディングに取組み、110万円以上の協力金を得ることもできました。この資金を使って、今年度、栽培するそば畑に設置する電気柵の資材を購入したほか、そば畑見学や、星空観察・鹿のナイトウォッチングツアーなど、協力者に春来を訪れていただくための様々な取組みを行っています。

既に述べたように、そもそも株式会社化にあたっては、運営メンバーの固定化により「地域と店」との関係が設立当初に比べて希薄になっている問題の解決が望まれていました。実は現時点では、株式会社化によって地区住民にとっての「私達の運営する店」という意識が希薄になった感はありません。しかしこの問題は「地区住民（自治会員）全員が株主である」という新しい形について理解を進めることで、新しい「地域と店」との関係を取り戻していきたいと考えています。

#### 5. 取組の効果と地域が変化するために必要なこと

株式会社化で、この会社のオーナーが自治会であることを明らかにしたことにより、地区外からの収入を得ているこのそば店を「地域で所有している」ことを改めて明確にできました。また、運営組織の位置づけがはっきりしたことで、この村おこし事業をより機動力をもって運営することができるようになりました。さらには、地区外からの若い働き手に来てもらえるようになったことも大きな成果です。

今後、この地域がよりよい形で存続していくためには、今まで以上に地域住民の皆さんが「そば処春来てっぺん」の運営を「ジブンゴト」として捉え、できるだけ多くの人たちの参画によりこの店を運営していくことが1つの大切な要素になると考えます。そのための仕組みは整ったので、今後は運営の工夫により地域住民の皆さんの「カカワリシロ」を増やしていきたいと考えています。

#### 6. アドバイザー自身のPR

春来地区では、地域から請われたことにより、アドバイザーとしては異例なことにプレイヤー、しかも雇われの経営者として参画することになりました。いずれは地区内の誰が経営者となっても運営できる仕組みを構築し、経営を地区の手にお返しすることを目標に「春来てっぺん」の持続可能な運営手法の確立を目指しているところです。

地区が健全に存続していける方法を、地域住民の皆さんと考えていくうちに、春来の場合はそば店の法人化がテーマとなりました。答えは法人化だけではなく、100の地域があれば100の方法があるはずです。アドバイザーとしては、地域をよりよく運営・維持していくために必要な方法を地域住民の皆さんとともに見つけ・考え出していくことを丁寧に行いたいと思っています。検討・企画・運営にわたる「納得のプロセスデザイン」を大切に、これからも地域の皆さんと一緒に考え続けたいと思っています。